

編集フォーラム

コロナ禍での研究をどう進めるか：共に「戦う」研究者へ向けたメッセージ

講演者紹介

- 大木清弘先生：東京大学大学院経済学研究科
東京大学博士(経済学)
著書『多国籍企業の量産知識』有斐閣、2014年
(2015年度 本学会賞) ほか
論文「海外子会社のパフォーマンスと本社、駐在員、現地従業員の権限—タイの日系販売子会社への質問票調査—」『国際ビジネス研究』8巻1号(2016年) ほか国内外のジャーナル
本学会の全国大会・関東部会での報告多数

概要

- 研究を真剣にやりたい方のみを対象としたお話をします。
 - 研究とは「他社から評価される一定の質のものを生み出し、世の中に公開するまでの一連のプロセス」と定義します。
 - 成果が現時点で出ているかどうかは問いません。年齢も問いません。そのプロセスにいると思う人全員が対象です。
 - 具体的に言えば、目標に対して自らを律してコミットできる方、その中で、今までの自分のやり方を否定されることも厭わない方です。

- お話しする内容
 - ①我々が置かれている状況：今後起こること
 - ②やりたいことと研究業績：ズレと葛藤
 - ③何をすべきなのか：具体的な研究アプローチ